

牛群検定通信 No55

◇ 子牛の寒冷対策について ◇

いよいよ冬本番です。乳牛は寒さに強いと一般に言われています。乳牛は、ルーメンで飼料を発酵させることで、発酵熱を得られるからです。言わば、カイロを体内に持っているようなものです。しかし、子牛はルーメンが未発達で発酵熱を得ることはできません。すなわち、カイロを持っていないことになります。今回は、このカイロを持たない、寒がりな子牛の冬季管理の一般的な注意点を紹介します。

1 一般的な冬季の分娩時の注意点

- 1) 分娩：羊水で濡れた子牛は急速に体温を失います。清潔なバスタオル等で速やかに拭き取るようにしてください。
- 2) 初乳：冬季でなくとも初乳の給与は大変に重要です。初乳は分娩後6時間以内に飲める量を何度かに分けて、39～42度に加温して与えるのが、理想的です。初乳の品質については3で紹介します。
- 3) 保温：難産などで体力の弱っている子牛の場合は、湯たんぽ等での保温を行ってください。

2 一般的な冬季の子牛管理

- 1) 管理：子牛は寒さに弱いので、カーフジャケットなどのウオーマー等の使用も有効です。カーフハッチ利用については、日当たりや風向き、雨水の浸入などの地形に気をつけます。
- 2) 敷料：糞尿で濡れた敷料は体温を奪います。敷料はたっぷりと与え、こまめに交換します。ニーテストなどで湿気をチェックしてください。
- 3) 換気：冬季であっても換気は必要です。換気が不十分だと、ホコリやアンモニアの濃度が高まり、肺炎などの呼吸器系の疾病を誘発させます。また、換気と送風は異なります。すきま風などが子牛に当たっていないか確認してください。
- 4) 飲水：水も39～42度に温めたものを利用するといいいでしょう。

3 初乳について

初乳は、子牛に免疫を与え、疾病に強い子牛とするものです。このことから、一般に良い初乳とは直接の母牛のものである必要はなく、次のようなものをあげることができます。

- 1) 体細胞数の低いもの
- 2) 2産以上の経産牛の初乳
- 3) 分娩前に漏乳していないもの

牛群検定成績を使って、前乳期の体細胞数が低い母牛から、凍結初乳や発酵初乳を作成しておくといいでしょう。もちろん、利用するときは加温してから与えます。

また、母牛の乾乳時の蛋白飼料を充足させ、胸腺が良く発達した子牛を分娩させることも非常に重要です。